

はじめに一近年の研究

- ① (回想) 西原征夫『全記録ハルビン特務機関―関東軍情報部の軌跡』毎日新聞社、1980年
- ② (資料) 栗屋憲太郎・竹内桂編『対ソ情報戦資料 第1巻：関東軍関係資料(1)』現代史史料出版、1999年
- ③ 竹内桂『『満洲国』における対ソ諜報活動』『日本植民地研究』第11号、1999年
- ④ 富田武「ソ連の対日諜報活動：ゾルゲ工作以前―ロシア国立軍事公文書館史料の紹介を中心に」『軍事史学』第175号、2008年
- ⑤ Hiroaki Kuromiya, The Mystery of Nomonhan, 1939, *Slavic Military Studies*, Vol.24, No.4.
- ⑥ H. Kuromiya & A. Polonski, Kozo Izumi and Soviet Breach of Imperial Japanese Diplomatic Codes, *Intelligence and National Security*, Vol.28, No.6.
- ⑦ В. С. Христофоров (отв. ред.). Великая Отечественная война. 1945 год. Москва, 2015.
 - a) С. В. Тужилин. Японские военные миссии на советском Дальнем Востоке
 - b) В. С. Христофоров. Общественные настроения в СССР: 1945 год.
 - c) Сообщения советских органов госбезопасности о контрразведывательных мероприятиях в Маньчжурии. (с.537-628)
- ⑧ Органы государственной безопасности СССР во второй мировой войне. Победа над Японией. Сборник документов. Москва, 2020.

1 ソ連の諜報機関・防諜機関

- 1) 国内保安機関：НКВД（内務人民委員部）→1946 МВД（内務省）＝警察＋その他
41 НКГБ（国家保安人民委員部）→46 МГБ（国家保安省）→КГБ（国家保安委員会）
国境警備隊
- 2) 赤軍情報機関：ГРУ（諜報本部） cf. 特務機関
ГУКР（防諜本部）＊大戦時は СМЕРШ（スパイに死を） 憲兵隊
- 3) 大公使館要員、とくに駐在武官
- 4) コミンテルン国際連絡部 ОМС

2 大戦期の諜報・防諜活動

- 1) 戦略レベル：基本国策（日本なら北進か南進か、どの国と同盟するか、戦争をいつ、どのように始め、終わらせるのか）
 - ①ソ連ではゾルゲの活動
 - ②日本は「ロシア通の軍人」はいたが、戦略に欠けていた。
- 2) 作戦・謀略
 - ① ソ連：ドイツ降伏 2-3 ヶ月以内に参戦、そのための準備

米国の主導権に楔打ち込む→電撃的作戦と占領の既成事実

モンゴルの協力（主力部隊の基地）、満洲の白系ロシア人を寝返らせる

- ② 日本：ソ連の参戦時期も主攻方面も読めなかった。
防戦一本槍で「本土決戦」までの時間稼ぎに過ぎなかった。
満洲国軍の非協力、反乱

3) 戦域差

- ① 満洲：地続きの情報戦 日本は「対ソ静謐」ゆえに越境偵察に躊躇
ソ連はスメルシが「戦犯」リスト準備
- ② 南樺太：国境線（50°N）からの工作員投入
- ③ 千島：地理的・気候的に情報取得が困難（航空偵察も困難） cf. 米軍の情報取得

3 ソ連の対日諜報・防諜活動：資料集⑧を中心に

- ① 満洲特務機関の調査：No.18 etc.
 - ・1915年発足から45年9月幹部逮捕まで
 - ・ソ連軍事・経済・政治情報の収集 cf. 満鉄調査部
 - ・特務要員の養成（末期に中野学校出身者増加）
 - ・脱ソ者の教育、越境投入
 - *リュシコフなし。No.70(24.08.45)に「裏切り者リュシコフは東京にいる」とある。
- ② ハルビン「保護院」の情報：No.125
 - ・脱ソ者の収容
 - ・731部隊の「丸太」
- ③ 白系露人の監視、寝返り工作
 - ・旧帝政ロシア将校ら：軍人同盟、ロシア・ファシスト党、亡命ロシア人事務局（БРЭМ）
 - ・浅野部隊の育成→「対ソ静謐」で44年に解散
 - ・マトコフスキー
- ④ 宣伝放送 Отчизна（祖国）：No.120
 - ・オペラ「サトコ」の行進曲で始まる
 - ・反応は当初二分、次第に浸透 cf. 1935年中東鉄道売却、大きいのは独ソ戦争
- ⑤ ドイツ降伏後の日本の気分：No.12（НКГБ在京要員の報告）
 - ・「重苦しい気分」「米英とソ連の不和に期待」
 - ・京浜工業地帯空襲（16.04.45）でパニック、労働忌避
- ⑥ 対日開戦直後のスメルシの活動
 - ・No.44(11.08.45)：3方面軍スメルシが諜報機関要員、白系露人ら119人逮捕
 - ・No.101, 103(12;18 09.45):ハイラル事件（同特務機関によるロシア人囚人らの虐殺）
 - *奉天事件（45年11月のソ連軍衛戍司令部襲撃）：占領下後方撓乱はほとんど失敗